

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1473200895	事業の開始年月日	平成16年3月1日
		指定年月日	平成16年3月1日
法人名	社会福祉法人まごころ会		
事業所名	グループホーム神田園		
所在地	(〒241-0012) 横浜市旭区西川島町68-11		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
宿泊定員		名	
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年3月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者さまからの「〇〇したい」「〇〇したくない」「〇〇の具合が悪い」などの訴えに対して、どのような場面であっても返答の第1声は肯定的なものになるよう努力している。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年12月10日	評価機関 評価決定日	平成26年3月1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】 「グループホーム神田園」は、相鉄線鶴ヶ峰駅から徒歩で10分程の、静かな住宅街の中にある。事業所の土地、建物は法人所有で、広い敷地内に耐震性の高い鉄骨造りで建てられている。内部もゆったりとした間取りで、利用者同士がそれぞれ落ち着けるよう、ソファやテレビ、テーブルを分散して配置している。リビングの一角には和室が設けられ、アイランド型キッチンからは、リビング内の利用者とのコミュニケーションがとりやすい。1階フロアの掃き出し窓から、ウッドデッキや庭に出ることができ、解放感がある。この敷地内の環境を活かし、利用者は職員と一緒に、庭で花壇や菜園の手入れを行ったり、外気浴で気分転換をしたりしている。また行事以外にも、その日の状況を見てウッドデッキなどにテーブルを出して食事やお茶などを日常的に行い、通学時の小学生を見送るなどしている。 【利用者への支援において、すべての根底となる理念】 当事業所の理念である「グループホーム神田園大原則」は、代表がグループホームを開設するに至った思いと経緯を踏まえ、利用者に接する上での、全ての基本姿勢を集約したものである。職員には利用者を自分の家族だと思って関わるように指導している。その思いを、時間をかけて職員に説明し、介護職の根本意識として根付いてほしいと考えている。この地域で育った管理者は、近所に顔向け出来ないような仕事はしないように心がけている。 【職員育成や交流などの新たな改革に向けた取り組み】 運営推進会議を担当する「地域部」や感染症対策委員などの「介護部」を任命し、今まで管理者がすべてを担っていた業務の一部を職員にも任せるなど、次世代の職員を育成し、今のサービスをさらに向上できるよう、新たな体制の構築を進めている。また、仕事以外でも職員同士のコミュニケーションの機会を増し、健康やメンタルヘルス対策にもなるよう、陸上部を作り、一緒に活動するなど、新しい取り組みを始めている。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	あさがお

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム神田園
ユニット名	ばら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	研修を通じ実践できるようにしている	事業所理念は管理者がグループホームを開設するに至った思いと経緯を踏まえ、利用者に接する上での全ての基本姿勢を集約したものである。職員には、入職時はもとより常に時間をかけて説明し、介護職として根本意識に根付いてほしいと考えている。管理者は、日頃から職員には利用者を自分の家族だと思って関わるように指導している。理念は玄関や事務所、各フロアに掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが改善の余地がある	盆踊りとどんど焼きへの参加が地域との主な交流である。定期的にマンドリン演奏のボランティアを受けている。認知症についての理解が浅い人たちからの申し出は断っている。中学生の体験学習を毎年受け入れている。利用者は、通学時の小学生に手をふったり、挨拶したりすることもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	検討し実施していく必要あり		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、評価結果、利用情報など提供している	新たに地域部を作り、正職員2名が運営推進会議を取り仕切るようになった。管理者があえて席を外すことで、気軽に意見交換できるよう本年度から体制を変更した。また利用者家族全員に声かけすることで、出席者も大幅に増え「行政にも積極的に声かけした方が良い」、「災害訓練について」などの意見も多く寄せられるようになった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を活用し今後充実を図っていく	鶴ヶ峰ケアプラザ職員がたまに事業所を訪れるが、市や区の担当者と日常的に連絡を取り合うことは、ほとんどない。区主催の催し物には利用者と一緒に行くこともある。感染症研修会には職員が参加している。	事業所から積極的に情報を提供することで、様々な連携が生まれ、地域の情報など、得られることも多くあると思います。まずは行政関係者に運営推進会議に参加してもらうなどの取り組みを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修時に身体拘束について学んでいる。一人一人が生きがいを持って生活して頂けるようにしています	研修は定期的に行なっている。「神田園大原則」の理念を理解している上で、身体拘束しなければいけないようなケアはあり得ないとの認識を持っている。門扉や玄関、フロア出入り口も全て施錠はしていない。見守りに力を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修時に高齢者虐待について学んでいる		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々によって理解度にバラつきあり、資料や研修の検討が必要		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務長にゆだねるケース多く、説明を明確に行える職員がいない		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	請求書内で情報提供、面会時に意見交換を行っている	家族会はアンケートの結果から検討し、運営推進会議と家族会を兼ねる仕組みとした。家族には来訪時に意見を聞いている。またリクエストシート（利用者の意向や苦情、職員からの意見やヒヤリハットなどを書き込む用紙）を活用して、利用者からの意見を細かく把握している。運営推進会議で防災についての意見が出たことから、防災リュックの個人装備につなげた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の形式はとっていない。必要時に随時おこなっている	リクエストシートなどで出された意見は、基本的には管理者、関係者として問題解決をしていく方式を採用している。リクエストシートの提出や決定事項などは、事務室兼休憩室の掲示板に貼り、申し送りでも職員に周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得支援制度においてより高度な介護がしたいと思う向上心にたいし支援している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修においては検討し充実を図る		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	更なる充実を検討し実施していく		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っている事、不安な事を共感し受容につとめている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いを傾聴し、良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	いきなり本入居ではなく体験入居をして頂くことにより、本サービスの利用が妥当なのか見極めを行っています		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お世話させて頂いているという気持ちをもって家庭的な関係を築く努力をしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にし、日常会話の中でも家族の話を取り入れ、家族との関係の維持に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある物品や写真などを部屋に飾り、心の安定に努めている	入居時には、なるべく本人の使い慣れた物を持って来てもらうよう家族にお願いし、居室は自宅の部屋に近い形で家具を配置するようにしている。家族の面会頻度は様々だが、誕生日などのライフイベントにはなるべく家族に参加してもらうようにしている。馴染みの場所へは、家族と出かけてもらうよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、食事の準備やゲームなどで仲間意識を高めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あまり行っていない		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	想いや暮らし方の希望を十分に傾聴・受容し意向に近づくよう努力している	入居開始時のアセスメントと、リクエストシートでフォローしている。普段の様子をよく観察し、声かけなどでその人の意向を把握するように心がけている。意向の把握は、理念の実現と合わせ、重要なことと位置づけて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話から本人の過去の生活や出来事などを聴き、記録に記載するなどスタッフが共有できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態、表情、気持ちなどを把握し、記録や送りによりスタッフ間の共有を図っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	送り時や空いた時間などに随時検討し、対応している	基本的な介護計画の変更は6か月ごとだが、事業所独自の「生活支援計画書別紙」を作成し、個人別・支援内容別に内容を随時更新している。職員間で情報共有し、その時々で変化する利用者の状態に即時対応出来るように心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを作成するにあたりスタッフと話し合い作成している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に入居者のニーズに対応し、適した支援ができるよう努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の飲食店、ケアプラザ、図書館、プール、バスなどの地域資源を活用した生活を支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な訪問診療時にきさくに会話することができ医師との信頼関係づくりを支援している	内科、精神科、循環器科に関しては利用者全員が協力医をかかりつけ医とし、定期往診を受けている。希望により歯科の往診を受ける利用者もいる。それ以外の専門医への受診に関しては、基本的に家族が対応している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護士が分からない事をアドバイス頂いたり、処置方法などをレクチャー頂いている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーの提供のみならず、職員も同行し日常生活や性格、認知症状の注意点を伝えるしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族、医師、現場の希望を考慮し、事業所として出来る事と出来ない事を共有している	現在、対象となる利用者はなく、職員には特別説明や研修は行っていない。家族には契約時に対応指針等で説明している。家族の考え方を第一優先し、対応が必要になった場合は、本人、家族、協力医と職員が相談して方針を確認することとなっている。	対応指針は作成されています。今後に備え、職員全員にも事業所としての方針を周知し、また対応に関する研修を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成及び各自の知識取得を支援している	/	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施している	消防署立ち会いの下「火災発生時対応マニュアル」を作成した。夜間火災想定避難訓練で、利用者も階段を使って避難した。12月には訓練後に消防署の評価を得た。避難確認用にプラスチックチェーンを使用する方法や個人用リュックの装備など、昨年度の「目標達成計画」を基に、改善や取り組みを工夫している。水、食料、備品などの災害用備蓄は職員分を合わせ約3日分備えている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である入居者ひとり一人に合った話し方や言葉を選んで対応している	大原則にあるようにもっとも重視すべきものの認識で毎日のケアを心がけている。言葉かけには注意を払い対応するように職員に徹底した教育をしている。事業所を設計する際にも、プライバシーに配慮し、自分の場所が色々な場所に持てるよう、余裕のある配置をした。訪問日にも利用者それぞれが複数のソファで穏やかに過ごしていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定して頂けるよう判断材料や適切な選択肢の提供を支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さまは人生の大先輩、ひとり一人をしっかりと観察し、希望があれば実行できるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪や髪染め、お化粧品なども日常的に支援している。衣類もご本人の希望をうかがって選択して頂いている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	得手不得手を把握し、食事にまつわるお手伝いに気軽に参加頂けるよう支援している	主食は好みにより、パンかご飯かを選ぶ。職員は利用者と共に食事し、日々の食事を楽しくするよう雰囲気づくりを大切にしている。時には、庭で鉄板を使って焼きそばをしたり、ベランダで、お茶や食事をしたりして、食事の時間を盛り上げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量を把握しながら健康管理にいかしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや口腔ケアへの声掛け支援をしている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ひとり一人の排泄パターンや習慣を把握して誘導している。また羞恥心や不快感を考慮して様々な種類の排泄補助具を組み合わせで支援している	「オムツ」などの言葉は使わないようにする、失敗を他の方に知られないようにするなど、本人の羞恥心に配慮している。また、様々な種類の排泄補助用品（リハビリパンツやパッドなど）を組み合わせでケアをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・食事摂取量の把握と運動支援を組み合わせ、なるべく薬に頼らず自然に排便できるように支援している		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ひとり一人の希望を優先し強制せずに入浴できるよう支援している。CDを聴きながら楽しんで入浴される方もいる	入浴は、その人の気持ちやタイミングを考えながら、支援するようにしている。体力的なことを踏まえ、入浴後すぐに食事にならないように時間を調整している。浴槽のお湯は一人ずつ、毎回変えている。入浴剤やシャンプーなどの入浴グッズは、各自が好みの物を使用している。利用者の誕生日などには入浴グッズをプレゼントする事もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照度や物音への配慮、アロマや布団干し、アンカの使用などで安眠できる環境を支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などを知る事が出来るようファイルにまとめて管理している。また服薬管理表により誤薬のないよう確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のレベルに合わせ検討し充実を図る努力をしている。散歩やカラオケのほか、計算や漢字書きなどを目標を作って生活のなかに楽しみが増えるようにしている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時または声掛けにてショッピングや散歩など外の景色や外部とのつながりを支援している	利用者の体力に合わせ、概ね4つの散歩コースを用意している。散歩にこだわらず、気分転換としても外気浴は必要なことと考えている。ズーラシアや四季の森公園、百円ショップなど遠方への外出に行く事もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望を出来る限り尊重し、スタッフと共にお買い物の支援や残高の確認を支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	使用に関し不自由にならないようさりげなく支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部の温度・湿度は日に2回計測し、快適な環境になるよう管理している	居心地の良い共有空間とするために家具の配置など、室内レイアウトを工夫している。利用者同士の視線に配慮し、それぞれが落ち着けるように、テレビやソファが複数セット用意されている。大きな掃き出し窓や、キッチンの背面にある吹き抜けからの採光で室内は明るい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビやソファを複数個所に配置したり、ベランダや和室、食席を点在させることにより気の合った利用者同士でくつろげる生活環境を作っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や調度品をお持ち込み頂け、居心地の良い空間になるよう支援している	ベッドやカーテン、照明器具なども新調するのではなく、なるべく自宅で使用していた物を持って来てもらうよう家族にお願いし、家具も自宅の部屋に近い形で配置するようにしている。趣味の作品やたくさんの小物を置く人、余分なものは置かずすっきりと片付けてある人など、それぞれに合わせた居室になっていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋は人それぞれの能力に応じて表札や写真などを掲示したり、トイレの案内板やゴミ箱を分かりやすく表示している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グリーン・アース 神田園

作成日 平成26年3月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	運営に関係する職員 意見の反映が 一部の者にかたよ っている。	常勤・非常勤の 差なく意見交換 する事ができる。	全体カンファレンス を定期的に開催 する。	6ヶ月
2	13	職員を育てる取組み	より専門職としての 意識を高めることが できる	勉強会を開催 し勤務後自発的 な勉強の場を作る	6ヶ月
3	13	職員を育てる取組み	困難事例や悩み を抱えている方が 全体で共有できる	事例検討会を 全体カンファレンスで 行い全体の問題 と考える。	6ヶ月
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。